



# 留学OBOGは語る

自動車マンが中米留学・異文化体験を語る

日産自動車 経済学部 2002 年卒 源 健司

## 北大時代の留学先

- ◇チュニジア・ブルキバスクール・アラビア語政府給費・短期留学
- ◇グアテマラ・アンティグア・私費西語留学
- ◇メキシコ・グアナハト大学・私費西語&カメラ留学
- ◇米国・サンディエゴ・英語留学

## 留学後の略歴

- ◇トヨタ自動車・グローバル調達企画部・南米担当(5 年弱)
- ◇さわかみ投信・日本株アナリスト・FM(5 年弱)
- ◇日産自動車・AMI 地域戦略部(海外事業/営業部)・南ア担当

卒業して 9 年が経ちました。本当に早かったです。いまのところとてもハッピーに人生を送っています。学生のころは中米留学を始め、世界各国をバックパッカーとして廻っていました。その経験を通じ、この 9 年で僕が感じた異文化体験の意義を書こうと思います。

まず、最も良いと思うことは、自分自身のものさしが増えるということです。単一の価値観が全てではないと考えるようになり、心がそして人生が軽やかになります。これは僕の職業感に顕著だと思います。実はこの秋に、3 社目になる会社に転職しました。日本的な価値観に照らすと、一貫性のないキャリアですし、そもそも転職自体がよくないことなのかもしれません。ただし、「自分の目標に向かって最も成長ができるステージを都度選ぶ」という自分自身の価値観から外れていないと思います。言い換えると、他人に惑わされずに自分自身の信念に従って、柔軟に取捨選択できるようになることだと思います。

一方で少し残念なところは、社会にでて数年もすると、学生時代の異文化体験の限界を痛感することになります。「語学力」「オープンマインド」といった学生時代に身につけたものに加え、「専門知識」が更なる成長においては必要不可欠となってきます。実際僕も、去年半年間ほど北米のある会社に出向し、金融の専門知識を深めるために鉱山株アナリストとして研修をしてきました。日頃、テレビや本、アナリストレポートでしかその知識に触れられないような人達に話を聞けるということは、とても刺激的で美しい日々でした。

つい最近、出向先で仲良くなった友人のファンドマネージャーからメールをもらいました。「君が推奨してくれたあの株は、中国の会社から買収提案をうけて株価が急上昇してい

るよ」とのことでした。すごうれしかったです。単純に自分の見通しが正しかったということと、それ以上にそのファンドマネージャーの役に立てたということがうれしかったのです。推奨した当時、新参者の僕の話をもっと聞いてくれる人はおらず、悔しい思いをしていたのですが（クレジットが低いので当然ですが）唯一そのファンドマネージャーはフェアに話を聞いてくれて、ポジションをとってしてくれたのです。この経験から強く感じたのは「専門知識」が高い人ほど「オープンマインド」な人だということです。逆にいうと「オープンマインド」であるからこそ、国籍や価値観にとらわれずに謙虚に人の話を聞き、そのことが「専門性」を高めてくれているのかもしれない。このように学生時代の異文化体験というのは放っておくと価値が色あせるものですが、常にメンテナンスしていると、他の要素と相まって自分を更に成長させてくれるのだと思います。

まとまりのない文章をだらだらと書いてきましたが、振り返ってみると異文化体験にしろ、転職にしろ、その年齢・感受性でしか出来ない体験というのは結構多かったです。僕が20歳そこそこでバックパッカーをしていたころ、見知らぬ街を徘徊し、見知らぬ人と話すだけで知的好奇心が満足していたのですが、30歳を過ぎて同じことをしても「ああこの景色はどこかでも見た景色だな」とか、「この食べ物はこの国のあれに似ているから同じ文化圏なのだな」といういわば想定範囲内に収まって物足りなさを感じるが多々あります。

当たり前ですが時間を戻すことはできません。そういう意味ではこの世で唯一平等なものだと僕は思います。その貴重な時間を未来のためにどう使うのかは、まさにその人の価値観にかかっています。僕はまだまだ冒険を続けようと思います。きっと楽しい未来を創ろうと思います。